



「根拠地」としてのあさひ

ぐるうぷ・はこび屋

野崎忠郎

1960年代初め、私は多くの学生仲間と共に東京郊外に出来たばかりの婦人保護施設でのワークキャンプ活動に参加していた。週末ごとに複数の大学から二十人近いメンバーが入れ代わり立ち代わり集まり、昼間は土方仕事や建設作業をし、夜は学習会を重ねた。宿泊場は私達が雑木林の中に建てた掘立小屋だった。学習会には様々な講師に来てもらってまずその話を聞き、その後討論をした。少年非行専門の家裁判事、貧困問題のレポートを続けているルポライター、牧師、セツルメントの活動家、様々な立場の人を通して、私達は自分達の運動のあり方やこれからの生き方について話し合い、考えあった。

ある時、参加学生のゼミの先生だった上原専禄元一橋大学々長が私達の飯場同然の小屋に来て下さり、毛沢東の「根拠地の思想」の話をして下さった。中国革命が成って十年たったその頃、毛沢東は私達若者の間では最大の英雄だった。毛沢東は大長征の後中国西北部の延安にすべての革命勢力を結集させ、そこを根拠地として各地に軍を出撃させて国共内戦と日中戦争に勝ち抜いて新生中国を建国した。静かな声で訥々と中国革命の歴史を語られた後、上原先生は私達にこういった。「あなた方がここで見たこと、語り合ったこと、考えたことを、社会の各界、各層に出て行って拡げていきなさい。そしてより良い社会を築いて行って下さい。ここを社会を変えるための根拠地と思って」60年安保の怒涛があっけなく退潮した後自分の中の社会意識をどう発現するか暗中模索していた私達にとって、上原先生の言葉は天啓のように響いた。「根拠地の思想」という言葉は、以後私達にとって大いなるスローガンになった。だがその後大学を卒業して散っていったメンバーの心や社会生活の中でその言葉がどう生かされ、あるいは生かされなかったのか、私にはわからない。そして数年後に始まった文化大革命の中で毛沢東もまた落ちた偶像となり、その過程で私の中からも「根拠地の思想」という言葉はいつしか消えていった。

それから十年程たったある日、私は山梨の雑木林の中で暮らしている奇妙な小集団を発見した。そう、それは文化人類学者が密林の奥で現代文明から隔絶した生活を送っている少数部族を発見したのと同じ意味での「発見」だった。その集団は「あさひ作業所」といっていた。あさひの暮らしぶりも現代文明から隔絶していた。集団構成員の半数以上は障害者だったが、彼等は当たり前のように重労働をしていた。現代社会では障害者の多くは福祉の中で保護されているから、こんな重労働をしなくても生きていける。それは私達の社会が生み出した合理的な制度なのだ。けれどあさひは制

度としての福祉になど見向きもしていない。とってそれは野蛮や未開や、偏屈な世捨て人集団とも違っていた。この現代文明の拒否はどういうものなのか、私のあさひへの関心はどんどん強まり、以後せっせとあさひの元へ通い出した。

同じ頃、ヨハネ学園の人達もあさひと出逢っていた。ヨハネからやってくるグループのリーダーは、顔中に真っ黒なひげを蓄えてその毛の塊の中からのぞく眼が炯々と光っている、これぞ酋長と呼ぶにふさわしい大男だった。ヨハネの行動力は群を抜いていて、十人程のグループでやってきてはあさひのあちこちに宿舎や鶏舎を建て、あるいは椎茸原木の植菌作業などをやっていた。短い期間にあさひの存在は広く知られるようになり、地元山梨だけでなく首都圏からもワークキャンパーが次々に訪れ、あさひはキャンパー達の活躍するにぎやかな祭りの場となった。そんな賑わいの中をうろついていた私の脳裏に、ある日突然十数年前に聴いた上原先生の講演がよみがえった。「ここで見たこと、体験したことを社会の各層に拡げていきなさい。ここは革命の根拠地です」——あさひはいつか「根拠地」になっていた。ここに集う若者たちは、あさひから何を学びとってそれぞれの場に戻っていくのだろう。その頃の私には、あさひが目指しているものが少しずつわかり始めていた。それは決して未開や偏屈ではなく、目先の利益だけを追求している現代文明への強烈な異議申し立てであった。障害者は保護したり支援したりすべき人達ではない、本当の意味で彼等と同じ運命を生きるということはどういうことだ、あさひの創始者である島充弘さんは、私達に無言でそのことを示し続けていた。それにしても島さんは静かすぎた。キャンパーでにぎわうあさひの構内で島さんを見つけるのは一苦労だった。いつの時でも島さんは賑わいから離れた鶏舎や椎茸小屋の中で黙々と作業に励んでいた。あさひが根拠地だったとしても、島さんのそんな姿は、延安の根拠地から全中国に革命に向けての指令を発していた毛沢東のそれとは対極にあった。そう思った私の眼に、私達の前で静かに、訥々と語っていた上原専禄先生の姿がよみがえってきた。上原先生は象牙の塔にこもる思索者であり、島さんは泥まみれで働く実践者だった。けれどその二人は私にとって、遥かなる高みに屹立する巨人だった。その二人の静かな、そしてそれ故にこそ強靱な姿が重なった時、私の中で「根拠地」のイメージが完成したとっていい。

お二人とももはや鬼籍に入った。そして私もまた老い、遠からず後を追うだろう。お二人から与えられた「根拠地」の観念と現実こそが、私の人生にとって最大の、いや唯一の指標であったという想いを胸にしなから。

旭ヶ丘の奇跡



GC&C 株式会社 代表取締役 吉田愛一郎

山梨県北杜市高根町村山北割の高台を人々は旭ヶ丘と呼ぶようになった。朝日が美しい場所だからか、そこに知的障害者のための慈善施設あさひテレサホームがあるからか？ あるいはそこにソーラー発電所

が設置されてゆくからかは定かではない。しかし、森の中に隠れるようにしてあったあさひテレサホームの中に しっかりとした鶏舎とシイタケ栽培のハウスが建築され、その建築やソーラーの保守管理業務にあさひテレサホームの人々が関わってゆくことになることになることは事実なのである。

ことの発端はソーラー発電所の用地探しだった。原発に頼らないソーラー発電推進のため、私は日照時間が日本一の山梨県北杜市に適地を探していた。18の候補地がリストアップされた。そして、それが10ヶ所に絞られて、8月には3ヶ所になり、8月末日でそのうちの一つの農地が発電所用地に決定した。そこは小高い丘だった。すがすがしい晩夏の午後だった。草の匂いが強く、丘の西方には古い鶏舎がいくつも並んでいた。何人かの人々がそこで働いているのが見えた。障害を持っている方々の施設のようにだった。その施設を運営する方に頭がさがった。代表者にお会いしてみたい。私の足は北側の高台に見えた白い建物に向かっていった。



「今日は」そこには見慣れた男の人の顔があった。なんで中山さんがいるの？偶然だった。18の候補地の一つ。つまり18分の1の確立。この偶然に、もっとすごい偶然、知り合いの中山さんが居るというすごい偶然が起こったのだ。そんな偶然の結果、ホームの代表者、島武代女史にはすんなりとあてにだけた。全く飾り気のない、化粧っけのない、しかし清楚な美人だった。旭ヶ丘の伝説の主人公だ。

不思議な魅力をもった人だった。

「この人は自分を捨てて障害者に尽くしている。この人の為にならなければならない」それが新しい鶏舎の建設となったのだ。新しい鶏舎を建てて、その上にソーラーパネルを置きたいと思った。設計図は直ぐに出来た。かなり良い出来だと思った。そして資金協力を募った、協力者はすぐ名乗り出た。そして資材の調達が始まった。

「島さん、中山さん。こんなデザインで進みますよ」それからしばらくして私の部下からこんなことを聞いた。島さんが間引きした檜材がいっぱいあるからそれらを使いたいと言っている。「えっ、業者も資材も用意しているのに、、、。それに丸太の鶏舎の上に太陽光パネルなんかおけないよ〜」でもまてよ。聖母島さんのお言葉だから、これはもしかして神様の啓示かもしれない。無視できないぞ。しかし職人たちは言った「やってみますがね、かなりの金額は覚悟してくださいよ」私は空を仰いでしまった。誰か商売抜きでやってくれる人はいないか？ それから一ヶ月以上経過したある日、ある老人がこんなことを言った。「昔の山伏は

ヒノキの丸太で簡単な社を山奥に建てたものだよ」そうか、そのイメージで設計すれば頑丈な物が出るかもしれない。そして設計図が出来た。そして恐らく世界でも珍しい檜の木造のソーラーの架台なのだ。そして、その架台の下には、動物が養われている。そして、植物も生育されている。



LED を使って植物工場にもならないだろうか？ 廃棄される間木を使った小屋の屋根がソーラーパネルで、その下で鶏が飼われ LED の食物工場の肥料は鶏糞だ。

ああ、偶然も感謝し、無茶と思えることにも耳をかしてよかった、よかった。皆はこれを旭ヶ丘の奇跡と呼んだ。

いつもより200%はハイテンション、



ワークキャンプは大変ダー！！

ワークキャンプ日誌2012

指導員 馬場 春夫

武代さんから「ワークキャンプのこと書いてね」と言われ「2日間時間を下さい」とかっこよく答えたものの、構想がまとまらず今日で10日目。安うけあいは後悔の元。

3月2, 3, 4日

医学生男女6人を迎える。去年も見えたとかでみんなのほうがよく知っていて、保田くんはさっそく美人さんとチームを組みたがる。指名された彼女に断ってもらおうとするも「いいですよ」との返事。馬場の作戦失敗である。保田くんはこの3日間はよく働いた。作業は鶏の世話のほかは、くりの木の下の畑の鉄くずやブロック片の片付け。集めてもあつめても、土の下からでてくる。お茶のとき、普段はしない性の話題を誰かが言い出しオタオタする馬場、しかし、上手に話題を変える彼女たちオタオタした馬場みつもない。作付けし、きれいになったら写真を送ると約束。今は白菜・大根が少し前まではズッキーニ・オカひじき・ミニトマト・小松菜があった。写真は送れませんでした、ご報告です。



5月26, 27, 28日

雲柱社の皆さん30人余を迎える。鉄人理事長服部さんの元気に圧倒される。ヒノキを林から運び出しトラックに積む作業では、重そうな樹に最初に手をつける。周りが止めようとしても、ますます元気にやられるので、みんなも頑張らない訳にはいかない。帰りのトラックでは眠られた様子だったがあさひに着くとまた元気に気合いを入れて働かれる。スイッチの入り・切りの見事さにただただ感心。初日・2日目は田植えでした。地元の稲の会の方々と一緒に手植え。横一列に並び、田んぼの端から端に糸を引っ張ってもらい植える。ぬ



かるんだ田んぼを進むのは結構キツイ。それでも予想より手早く終わり、先に書いたヒノキの運び出しに着手できた。ヒノキは新鶏舎の柱になるために、倉庫の横で待機中です。

8月8, 9, 10, 11日

雲柱社・子どもさん中心のワークキャンプ初日あさひの畑のジャガイモほり、2日目は今年で3年目となる麻川善行さんのご好意による2種類のジャガイモほり。ジャガイモを残さずきれいに獲るのは思ったより大変。腰が痛いのだ。最後は這いながら獲った。やはりご好意で、とうもろこし、スイカ、ジャガイモのふかしたものをご馳走になった。予定外の人参・きゅうり・トマトまでご馳走になり感謝！感謝！です。ありがとうございます。途中、南建司くんが行方不明？となり大声で探す場面もありました。午後とりくんだ産卵箱づくりが大騒ぎ。3, 4人のチームで作るのだがのこぎりや釘うちがうまくいかない。つくったり壊したりで完成品は2個でした。サイン入りで出番をまっています。最終日に植えた赤かぶ・白かぶ芽が出たのですが、逃げたニワトリに食べられてしまいました。ごめんなさい。服部理事長はじめ大人のかたには屋根のペンキ塗り、ギョフン乾燥場作り、大銀杏の下枝おろしをしていただきました。暑いさなか本当にありがとうございました。

8月13, 14, 15, 16日

東駒形教会・大人と子どもさんのワークキャンプやはり、あさひのジャガイモと麻川善行さんの2種類のジャガイモほりをしました。麻川さんの畑までみんなで歩きました。好天・猛暑の中、笹生さんいもほりで大活躍。存在感発揮。大人の方々には、長く懸案だった倉庫の片付けを2日間ととてもきれいにしていただき、2つの倉庫とも機能的に使えるようになりました。黙々と続けられた皆さんのがんばりに大感謝です。3日目に種をまいた大根・小松菜・かぶのうち、小松菜は大豊作。大根はいっぱい芽がで、成長もしたのですが大きくならずに消滅。残念。



9月10, 11, 12日

ライチウス（フランス語で清楚の意とか）ワークキャンプ大学生男女8名、去年来た学生さんもいて心強い。今年は田んぼにヒエが大繁殖。武代さん、市村さんがヒエ退治に終始取り組んだが、ヒエの繁殖力が強力で、3日間強い日差しの中、また、時に雷雨に見舞われながらヒエの駆除をしていただいた。やってもやっても終わりの無い闘い、ありがとうございました。

美男美女の協力に、あさひのみんなはハイテンション。勿論馬場もハイテンションですが、恥ずかしさでお顔は直視できません。訂正します。岩崎さんは冷静、トンちゃんはいつもどおりです。



9月14日

ヨハネ学院、指導員含め総勢10余人。シイタケ原木の展開・シイタケ貯水槽と畑の境界の排水路作りトラクターの進入路の大きなコンクリート塊やブロック移動あさひの人員が少な日に来ていただき、手の足りないところ普段手の届かないところを作業していただきました。お体が不自由な方も、ずいぶんがんばっていただき感謝にたえません。排水路はその後も立派に機能しています。ヨハネの皆さんにはこれ以外にも数回きていただいていますいつもありがとうございます。

9月29、30日、10月1日

雲柱社21人。稲刈りを予定していましたが、台風の関係であさひと稲の会で刈り取りは済ませ、はせ掛けを集中的にさせていただきました。鉄やアルミの器材をくみため、刈ってある稲束をかけていく。単純作業ですが、今回は台風の襲来が予想されスピードが求められました。29、30日で完了したのですが、30日の夜台風の強風。1日の朝みたら3枚の田んぼで、全壊3本、半壊3本、一部壊多数となっており、帰る時間の迫る中、理事長はじめ皆さんに、大車輪のご奮闘をいただきました。壊れたはせを作り直すのは、器材が曲がったりしていうことを聞かずに泣きたくなる様な作業でした。終わった直後あの服部理事長が道路に大の字に寝っ転がり、空をみあげてらっしゃいました。みなさん、ありがとうございます。書いて気づきました。あさひ福祉作業所は多くの善意の方々のお力でいかされているという事を。この善意に応える思想と行動が指導員に求められているんだという事を。ご近所のみなさん、私の勉強不足と不注意で異臭のでる、燃やしてはいけないもので、ご迷惑をおかけし申し訳ありませんでした。あさひに寄せられる善意にそむくものと、おおいに反省しています。今後ご指導をよろしくおねがいたします。

Y君、Yさんの日々

島 武代

テレサホームの彼らは、14年～30年とあさひで共同生活を送っています。少年から、青年、成人と年月を重ねて行く彼らに、当然、心と体の変化があります。Y君は、難治性のでんかんがあります。あさひの生活でも強いてんかん発作をくりかえしていました。ご両親の心配は、我が子と離れているだけに、何倍にも膨れます。ご両親は、度々、あさひを訪れ、私どもと連携し、日常生活に問題はないか、



あさひ福祉作業所 20周年を迎えて 平成9年

あさひを訪れ、私どもと連携し、日常生活に問題はないか、

処方についてどうか、と検討し、病院を訪ねました。適した処方を見つけるため、とうとう国立病院に入院致しました。3ヶ月に及ぶ入院の結果、やっと適した薬を見つけ、以後15年以上も発作がなく、Y君なりの生き生きした生活を送ることができました。しかし今年9月頃より、本人より、体がフラつく、との訴えがありました。就寝時点灯したままなので、熟睡できず、寝不足の状態で作業しているためかな、、、と思い、就寝時の消灯も心がけました。5日ほどしても、ふらつきが改善されません。私どもスタッフにも、もしや悪い病気では？と不安が襲ってきました。早速、総合病院で、内科、血液検査、頭部のMRI撮影、眼科と受診しましたが、異常ありませんでした。あとは、てんかんの処方に？が付き、担当医に相談致しました。〇〇錠を省いて投薬してください。それでしばらく様子を見ましょう、、、との指示を受けました。そのとおりにすることで、ふらつきがなくなり、以前の元気なY君になりました。（就寝時の消灯は、現在もスタッフが見守っています。）彼らのつぶやき、訴えに耳を傾けること、ちょっと立ち止まって、彼らに向き合うことの重要性を改めて感じました。

Yさんは明るく、お客様にも笑顔を見せ、人気者です。そのYさんに、今年に入り変化が見られるようになりました。あさひに入所時より、多少の自傷行為がありましたが、そのうちに（1年ぐらいかかりました）なくなりました。それが今年に入り、また自傷行為が始まったのです。Yさんは、口数が少なく、言葉で感情を表すことが苦手です。また彼らが、ワイワイ喋っている中に、溶け込むことも苦手です。鬱々した感情を、一人部屋に閉じこもって、



持て余しているのでしょうか、、、。Yさん、Yちゃんと声かけを多くして、存在を認めるように心がけたのですが、、、ご両親にその状態をお話し、しばらく家庭で心の安定を図るために、ご両親がお迎えに見えました。ご両親の心境は大変なもので、涙涙でした。自宅では、ご両親の温かい愛にたっぷりつかり、ケースワーカーとの面談等をとうし、少しずつ落ち着きをとりもどしました。10

日ほどで、本人自ら、あさひへ戻る、との言葉で帰所しました。その後も彼らとの諍いに自傷行為は、ついて回りました。ある日、Yちゃんを抱きしめ、“そんなに辛いよね、”との声かけに、涙をぼろぼろながすのです。“辛いよね、たくさん泣きな、”と声をかけながら抱きしめました。翌日、“今日は元気かな、”“？”と抱きしめると、涙をぼろぼろながすのです。“そんなに悲しいの、たくさん泣きな、”と昨日と同じ言葉を、くりかえしました。そのような事を毎日抱きしめながら、して行くなかで、なみだはいつしか出なくなりました。ある日、Yちゃんの口から、“もう、やらないよ、（自傷行為）”と発しました。その後も、おはよーとハグし、おやすみーとハグし、（自傷行為のところを触りながら）きれいになったね、とハグしています。

きっと“私は、ここに居るの、認めて、認めて、”とサインを出していたのですね。

Y君、Yさんのことから、マザーテレサの一人ひとりが大事な大切な人、実感しました。教会では、韓国の委神父様が、私たち信徒に、よく握手をしてくださいます。私も女の子とハグし、男の子と握手するようになり、手のぬくもりをどうしてお互いを認め合えることも素敵だなーと感じる今日このごろです。

松島♪車椅子の旅を終えて

中山 正博

今年のあさひテレサホームの旅行は、被災地支援の思いも込めて東北の地を選ぶことにしました。第1班（10月21日～23日）第2班（10月28日～30日）と分かれて、宮城県の日本三景の一つ松島を満喫してきました。温泉も出るようになったということで、絶景を眺めながらの温泉三昧でした。



現地での様子は、第2班の報告にゆずって・・・第1班のエピソードを報告したいと思います。今回は復帰した車椅子のMが旅行に参加できることになり、宿泊先の選択からバリアフリーを意識しての計画となりました。

行き先から、列車の路線計画までをインターネットを駆使し、いざチケットを購入！？、驚きの連続でした。まず選んだ出発駅は小淵沢駅、チケット購入のため窓口で要した時間は1時間半あまり、他のお客様の合間を見ながらも仕事とはいえ、乗り継ぎの手配まで含めた車椅子でのスムーズな松島海岸駅までの行程を、手際よく、愛想よくサービスしていただくことができました。それでも、ぬぐいきれない少しの不安を抱えながらも当日を迎えてみて・・・！？驚きました！！



管理用通路やエレベータ、普段一般のお客様が

利用できない通路等などを行き先々の乗り継ぎ場面で、車椅子用のブリッジを所持した駅員スタッフの方々が乗車した乗り降りの場所で待ち構えていて下さり案内してくださいました。限られた乗り継ぎ時間の中でのサービスに嬉しくて感動しました。



仙台駅の構内では、ここの通路は天皇陛下や芸能人の方々も利用されるんですよとの言葉に、一同(°o°;)のVIP待遇でした。そして最後の松島海岸駅では高台の駅舎ゆえ階段が長くあり、エレベータの無い駅のため駅員4名の方が車椅子ごと抱え上げて、降ろして下さいました。復路もちろん同様に、小淵沢の駅まで途切れることなく案内していただき無事松島の旅(車椅子編)を終えました。JRの今回お世話になった方々に改めて感謝したいと思います。ありがとうございました。



「被災地を見て来てほしい」…という、

武代さんの鶴の一声から始まった、

今年のあさひの旅行。

草場 泉



第2班は、10月28日長坂駅から出発しました。第一班、中山さんの立てて下さったスケジュールのそのままに、中央本線→あずさ→新宿駅→埼京線で大宮駅→新幹線「はやて」で仙台と乗り継ぎ、仙石線で松島海岸駅に到着したのは午後2時を回った頃でした。

まず観光案内所で、被災地への行き方を聞いたところ、「ここ、松島海岸駅は内海だったので津波は、来たけど大したことなくあったんですよ。でも、この先の外海に面したところは駅も全部流されて、電車も動いていないので、今も代行運転のバスしかないんです。でも、ここが残ったから、全国から来たボランティアもみんなここから被災地に向かったんですよ～」と、穏やかながら胸にせまる言葉…。「少し脚の不自由な人がいるの

ですが？」とお聞きすると、「では、「野蒜」（のびる）まで代行バスで行かれて、そこから手前の「東名」（とうな）まで歩かれたらどうですか？この、松島海岸駅よりむこうの海沿いは、駅舎も何もかも流されて、今も代行バスしか走っていないのでバスで行くんですよ」と言われました。それまで、電車の中から見える景色や駅周辺が「何事もなかったかのように穏やか」なのは、松島海岸駅周辺が地形的に守られていたからだということに気がつきました。

その日は宿でゆっくり、武代さんからもう一つ言われた、「私たちにできることと言えば被災地に行って観光してお金を落とすこと」を忠実に実行して、海の幸や名物牛タン…その他お膳に乗り切れないほどのご馳走に舌鼓、そして温泉三昧でした。



翌朝（29日）は雨も上がって曇りのち晴れ！めいっぱい歩きました。まず、歩いて15分のガラス美術館に行き見学とお買い物。そしていよいよ被災地に向かう代行バスに乗りました。バスは古い大型の観光バスで一時間に一本しかありません。教えられた「野蒜」で降り、すべてが流されほとんど何もなくなった広い海沿いの道を歩きました。

すでにながれきも全くなき、人もほとんどいないし車もほとんど走っていない、何も知らなければただのただの広い景色です。野蒜駅の駅舎も流されて駅そのものが無くなっているの、残されているのは廃墟のような駅の入り口と隣のパチンコ屋さん。ところどころに外灯やガードレールがぐにやぐにやに曲がっていて凄まじかった津波を感じました。ほとんどの家は土台だけで跡形もなくなり、たまに残ったお家があれば窓に板を打ち付けドアには鎖で閉ざしています。広大な大地に続く一本道を歩いて歩いて、となりの「東名」バス停からバスに乗りました。土地勘がないので間に合うかどうかひやひやしましたが、ぎりぎりセーフ！でした。



そしてそのまま松島海岸駅に戻り、昼食・散策・湾内遊覧船に乗り、水族館でアシカのショーを見ました。アシカがとてもユーモラスでかわいかったです。それから、宿に戻り夕食後、名所旧跡の庭園の紅葉をライトアップしているというので、ホテルのバスで見に行きました。歴史ある名庭園に、ロウソクや照明で映し出される始まったばかりの紅葉は見事な幻想世界を体験させてく



れました。3日目（30日）は、帰路につく日です。早めに宿を出発、お土産を買いながら松島海岸駅から仙台駅へ。仙台の七夕で有名な巨大なアーケードは歩行者天国で安心して歩けるのでみんなで3時間も歩き回り買い物や食事を楽しみ、帰りの途につきました。





あさひ交流会へのお誘い

初冬の候、皆様いかがお過ごしでしょうか。

今年は少々早めに開催する運びとなりましたのでご案内致します。

◎日時：平成24年12月8日 AM10:00～PM2:00

◎場所：あさひテレサホーム

◎会費：300円

◎交流会プログラム

吉村&テレサ合唱隊の発表会

もちつき

フリーマーケット等・・・

あさひの鶏と天然酵母パンを使ったハンバーガー販売いたします。



つきたてのお餅と豚汁、おにぎりをご用意して皆様にお目にかかるのを楽しみにしております。

尚、会場ではもちつきにともない、のし餅の予約販売も行います。返信用ハガキに必要事項を明記の上ご注文ください。原則として参加者のみの販売とさせていただきます。また会場にて豆餅、くるみ餅、ゆず餅等の販売もしておりますのでご利用ください。

特定非営利活動法人あさひ

あさひテレサホーム

〒408-0002 山梨県北杜市高根町村山北割 86-6

TEL 0551-47-3950

FAX 0551-47-4414

asahi-fukushi@cd.wakwak.com

賛助会費・寄付金等

★郵便局振込★ 00220-1-98254

編集者：中山 正博